

連続 第9回・10回ワークショップ

日時：2014年10月23日（木）

24日（金）18時～21時30分

場所：日立システムズホール仙台



音響スタッフの方に入ってもらい、パフォーマンスの通しと作曲家と当日にバンドで参加するメンバーとライブの練習をしました。パネルも最終調整を行いました。

単発 第9回ワークショップ

日時：2014年10月26日（日）10時～12時

場所：せんだいメディアテーク オープンスクエア

参加者：大人8名



70代・女性・Aさん

私たちの子育ての時は女が子どもを産んだら女は家にいて、育てることが常識だったから、外で働くということはありませんでした。でも旦那の給料が低くて、給料をもらってくる一週間前は何もない状態で、親戚をまわって子どもが飽き買ってもらえと、小遣いもらうので、それで生活をして、それでも苦しいということはありませんでした。足りないからって前借りすると来月もっと大変じゃないですか。お米の貸し借りは隣とありましたが、うどん一個でも買えましたから。近所でみんな同じ子育て

をしていて、昼に子どもたちを集めてうどんを食べさせたり、昼寝をさせたら、胡桃を拾いに行こうと言って、一斉にそれぞれ家に向かって鍵をかけて出て行く。それでストレス発散してましたし、何々の内職がお金取れそうだとすると、誰かが親になって、一緒にやって、おぶつても何しても仕事はできなし、具合が悪いってなるとちょっと預かってくれるお母さんもいて、自分の子どもか他の子どもかわからないくらい同じように育てました。息子も息子の嫁も教員ですが、子育ての間は、すばっと仕事を辞めて、小学校5年生くらいになってから、臨時教員で働き始めましたが、子どもが帰ってくる時には絶対帰れる仕組みにして今でも臨時教員で働いています。今は高校生中学生ですが、送り迎えは絶対しています。

30代・女性・Bさん

私は経済的な理由で職場復帰しないといけないなと思っています。本当はそういう子育てをしたいのですが。

30代・男性・Cさん

子どもが生まれるときに嫁は仕事をやめて、子育てに専念しています。自分の働きだけで何とかなっていますが、嫁は必要になれば働きに出ると言っています。

20代・女性・Eさん

私は両親が共働きで鍵っ子でしたが、そのおかげで早くから自立できたと思っています。母親が帰ってくるまでは好きなテレビが見れたり、夕ご飯は弟と二人で食べていました。これから大学院でまだ仕事と子育てがどっちがいいかわからないです。私は理系なので就職先はありそうなのですが、やりたい仕事はまだわからない。誰か（結婚をして）養ってくれたら良いなとも思いますけど。

20代・女性・Dさん

私はできるなら結婚したくないなと思っています。面倒というか他人の人生まで背負うのが不安があります。私は一人っ子で両親には早く孫を見たいと言われてます。親のために結婚しなければならぬのかなど。自分の気持ちがないというか自分が自分でないような気がします。両親の激しいところを見て、結婚したい気持ちにはなれないなと思います。

阿部さん

両親の姿を見て結婚したくないと思う人はいるようですね。人それぞれの形があるので、他の幸せそうな家族を見てこういう形もあるんだと知ることでもできます。

4都市連携プロジェクト — 結婚・産み・育てをみんなで考えるワークショップ —

となりの子育て



レポート
vol.5

「結婚・産み・育て」に関わるさまざまな課題を解決するために、演劇の手法を使い、お子様を持つお母さん、お父さんだけでなく、結婚前の10代後半から20代の若い世代や、子育てを終えた世代も含めて気持ちをシェアし、みんなで考える場をつくりました。



©Takaki Sudo

進行役：阿部 初美（あべ はつみ）

演出家。演劇集団円所屬。故太田省吾（劇作・演出家）に師事後、演出家として活動。'06年より、にしすがも創造舎レジデント・アーティストとして、東京国際芸術祭を中心にドキュメンタリー的な作品『4.48 サイコシス』『アトミック・サバイバー』『エコノミック・ファンタスマゴリア』などを発表。東京芸術大学、(財)地域創造リージョナルシアター事業、各地の公共劇場などで講師を務める。'10年に出産。現在は子育てしながらワークショップを中心に活動中。

連続 第6回ワークショップ

日時：2014年9月26日（金）18時～21時30分

場所：日立システムズホール仙台

参加者：7名



アンケートから抜粋した言葉の道筋を考えながら、パネルの制作を引き続き行いました。

単発 第6回ワークショップ

日時：2014年9月27日（土）10時～13時

場所：太白区中央市民センター 和室

参加者：大人6名+子ども2名



20代・女性・Aさん

前は子どもが苦手だったのですが、一緒に遊んでいると自然に手をつないでくれたりする。こんなことが自然にできる子どもはすごいと思うのですが、自分が子どもを産んで子育てを始めたらお母さんにならなきゃいけないんじゃないかというのが嫌なんです。お母さんは完全体を求められている感じがして。優しく温かい。私の母は主婦をちゃんとやってくれる人でした。自分の母は母ということに納得していなかったんじゃないかと思えます。最終処分場になっていて、いろんな雑多な出来事は全部、母にまかせて父も兄も私も気楽に過ごしていました。介護や家事もまかせられて、悪いなと思い始めてから手伝うようになったんですけど前はしんどいと思いました。自分のこともできないで母親が社会で評価されていないのではないかと思います。

30代・女性・Bさん

大人は地域との子育てにどこまで関わった方がいいのか、と気になっています。関わりすぎても大人頼みの子育てになります。見守るのも大事だけど、10歳になっても親がべったりなのか。大人が子どもに関わりすぎるのもどうなのか、バランスの具合が気になっています。いろんな子どもが関わりと下の子を見るようになると思うのですが、大人がずっと関わっていたらやなくなるのではと思ってしまいます。

20代・男性・Cさん

私はまだ未婚ですが、このままだと両親の介護と子育てが一緒になってしまうのではないかと考えてしまいます。家が東京なので、東京で子育てをするのかと思うと、不安もあります。遊ぶ場所や緑もないですし、どういう場所で育てるといいのかなど気になります。

お問い合わせ

公益財団法人仙台市市民文化事業団 事業課事業企画係 担当：飯川

TEL：022-301-7405 メール：info@sendaicf.jp

主催：仙台市/日立システムズホール仙台 公益財団法人仙台市市民文化事業団 のびすく泉中央 助成：(財)地域創造

<http://www.sendaicf.jp/kosodate/>



となりの子育て

検索

「母とは何か」「父とは何か」とテーマ毎にグループに分れて、話し合い、タブロー（静止画）を作りました。



「母とは何か」

少女の母と子育てをしている母がいて、両方に引っぱられているけれど、引き裂かれないことを絵にしました。

連続 第7回ワークショップ

日 時：2014年10月9日（木）18時30分～21時30分
場 所：日立システムズホール仙台
参加者：7名



ステージ発表の経過報告を行い、意見を言い合いながらブラッシュアップをはかりました。

単発 第7回ワークショップ

日 時：2014年10月10日（金）10時～13時
場 所：太白区中央市民センター 和室
参加者：大人4名+子ども3名



20代・女性・Aさん

今、妊娠中で産休まで仕事をするつもりで働いているのですが、

体調よりも周りからの理解が得られにくくなあと感じています。やはり年配の女性方からは昔だったら妊娠したらやめるものだと言われたり、どうしてあなたは働くの？という雰囲気です。ちょっとした時に具合が悪くなるだけで、一日中具合が悪いわけじゃない。休んでしまうと仕事が進まないのではなるべく動きたいと思っているのですが、そんなに具合が悪いなら休んだらとちょっと冷たい感じで言われて厳しいものだなと感じます。同じ妊娠を経験をした人に言われるのが気になります。

30代・女性・Bさん

そういう風に言う人は身内には甘くて周りに厳しい気がします。家の人に厳しく言えないから外に厳しく言うってしまうのではないのでしょうか。

阿部さん

そういうことを言う年配の方の世代は大変な時代だったと思います。エスカレーターとか電子レンジとか便利なものがなかった時代で、同じように助けて欲しかったけれど助けてもらえなくて今、そうしてしまう。他の年配の方に聞くと苦しいのはわかっているはずなので、きっかけ次第では応援してくれるはずだと言ってくれる人もいます。

30代・女性・Cさん

私は育休から復帰する予定なのですが、保育所に入れるかどうか心配です。区役所にいったら「厳しいですね」と言われて、同じ教員でも入れなくて無認可に入れている人もいます。

30代・女性・Dさん

入所できるかどうかで悩またくないと思います。育児だけで悩みがあって、復帰する仕事について考えることもあるのに、入れるかどうかの時点で悩まなければいけないのはおかしい気がします。

阿部さん

仙台は待機児童ワースト4位ということもあり、保育所に入れるかで悩んでいるのをよく聞きます。ワースト1位の世田谷区では、保育所を作ろうと急ピッチで進めたら、住民から「子どもがいるとうるさい」と反対を受けてしまいました。閑静で高齢者が多い住宅地にある保育所に通っていた人は、保育所への苦情が多く、先生が「静かにしなさい」と注意ばかりで、そういうところに通わせられないとやめることにしました。世田谷では研究者の方いわく、本来子どもは普通にいるものなのに、少子化で子どもと接する機会がなく、子どもは害だと思込んでいるのはと見ているようです。

20代・女性・Aさん

両親共働きで保育所に入る前はひいおばあさんに育てられていました。田舎で何軒隣の家のことまでみんな知っている状態、

おばあさんたちのお茶飲み会があって、そこで情報を交換している。私の母はそれを嫌って抜け出したいと思っていました。田舎なら子どもが2、3人いて当たり前で共働きで一人っ子の私は珍しく、事情を知らないであれこれ言われるのが嫌だったようです。

阿部さん

昔の子育て、地域で子育てと今言いますが、そういうしがらみを抜けだしたい世代があって、高齢者から子どもまでのコミュニティが分断されてしまっているのかもしれない。

連続 第8回ワークショップ

日 時：2014年10月17日（金）18時～21時30分
場 所：日立システムズホール仙台
参加者：6名+見学1名



舞台監督にステージ発表の経過報告を見てもらいました。音声文通の録音、インタビューの追加撮影を行いました。

単発 第8回ワークショップ

日 時：2014年10月18日（土）10時～13時
場 所：太白区中央市民センター 和室
参加者：大人3名+子ども2名

男性参加者が多く、お父さんならではの関心事が集まりました。阿部さんがお休みのため生田さんが代行しました。



30代・男性・Aさん

シングルファザーで娘を育てているのですが、自分が親として

関わっているのに子育ては女の人のものというのがとても違和感があります。保育園や幼稚園は意識として母性を与えてあげるのが保育だと言っているのを聞きました。女性が外に出て働いてもいいと思います。父親としての意識の向上を認識してもらうことに、下手なキャッチコピー、例えば「イクメン」を使わなくても、もっと自然になるのではないかと思います。イクメンという言葉が嫌いなんです。言われなくても当たり前に行えるような社会ができればいいと思います。父親向けの企画は「お母さん」を助けようという企画ばかりで、父親が主導になって子どもに関わる企画がないです。

30代・女性・Aさん

うちは父親が関われなくて子どもが私にべったりなので、これではいけないと思い、休日に二人っきりにさせることを30分から始めてみました。最初は泣きましたが、その日は仲良しになりました。ようやくイクメンというわけじゃないけれど父親として気にかけていたことが、小さいレベルだけどできるようになってきました。

30代・男性・Aさん

一番近いパートナーに小さいレベルでも認めてもらえることがすごいと思います。女性は30分だけで、ちやほやされると思うなよ、という意識なんですけど、大抵の男性は30分でもすごくやったと思っているので、認めてもらえる関係がすごいと思います。

生田さん

男性で育休をとった方の話も聞きますが、その職場では頑張っても一ヶ月位しかとれなかったと聞きました。

30代・女性・Aさん

私は子どもを産むときに仕事を辞めましたが、育休はどういう感覚なのかなと気になります。育休中のお母さんの話を聞いていると子どもを見ていたいという気持ちもあるけれど、仕事に復帰しようとしていて、それが楽しみなのか先があってブルーなのか。職によると思うのですが、一時離脱して、子育て中は外に出られず、社会に戻れるという感覚があると聞きますが、そんなに子育てが苦しいのかなと、子育て中でもその社会なのではないかと思います。私の働いていた職場は子どもができたときに（元々辞めるつもりではありましたが）「どうするの？ やめるんでしょ？」みたいな雰囲気のところでした。遅くまで働いて子どもの顔も見られないのは、切ないというか、子どもが犠牲になっているなどと思います。シングルマザーの話を知ると、実家に子どもを預けて遅くまで働いているのですが、子どもとはコミュニケーションがとれず、稼がなきゃいけないこともわかりますが、そこまでしなきゃいけないのかというのは切ないなあと感じます。